

3 定前日委員会

安心して住み続けられる街に～住まいの近くに病院を

バランスの取れた医療提供体制の構築を目的とした「地域医療構想」は、2040年とその先を見据え、2028年度末までに新たに策定するとされ、国からガイドラインが示されました。病床のみならず入院・外来・在宅医療、介護との連携、人材確保も含めた医療提供体制全体の構想を目指すとしていますが、まずは、地域住民が安心して十分な医療を受けられる前提でなければなりません。丸山はるみ道議はその立場で質問しました。

急性期機能病院
削減の不安拭えず

丸山道議の質問に、2040年の道内人口は現行より60万人減少の431万人、65歳以上の人口がピークを迎え約171万人。高齢化率は39・7%となる予想だと、地域医療課長が答弁しました。

国のガイドラインでは「急性期拠点機能」を20万人から30万人にひとつを目安に確保とされています。急性期拠点機能病院の統廃合などによる、大幅削減につながる懸念は拭えません。

国はこの間、急性期機能から回復期機能病床への切り替えを

地域住民が安心できる
医療体制の確立を！

丸山道議は、構想区域の考え方として、通院のための公共交通の有無、医師や訪問看護師の不足など考慮が必要だと道の姿勢を質しました。

さらに島牧村診療所で医科が廃止、旭川市では5つの基幹病院の再編が検討されるなど、新医療構想を先取りするような動きがすでに出ていることを指摘しながら、地域住民の要求に応え、安心できる医療体制の構築に向け、住民の声をしっかりと聞くべきと、道に取り組みの協力を求めました。

道は必要に応じ地域の方々と意見交換の場を設けるなど、課題をきめ細かに何うと答弁しました。

「くらし支える道政へ」全道から議員が集結

8月21日、道庁にて道内自治体の地方議員が参加しての対道交渉を行いました。医療・介護・福祉に関する課題はもちろん、道路補修や教育問題まで1日かけての交渉は、暮らし直結の要求を直接訴える貴重な機会となっています。

不十分な暑さ対策
対応求める声が相次ぐ

就学援助金の入学前支給の実施自治体が広がり、現在、高等学校教育無償化、小中学校の学校給食無償化など、国の制度を超える補助実施が各自治体で相次いでいます。隠れ教育費の無償化や中学校までの給食費無償化が引き続き訴えられました。しかしなんと、いつも暑さ対策です。道教

公共交通としての
鉄道の意義が問われている

JR北海道のいわゆる黄線区の改善方策を今年度末までに示すことが求められていますが、方向性さえ見えてきません。

地方の暮らしに鉄道の存続は不可欠です。道の責任はもちろん、国も責任をもって財政的負担をする必要があるはず。

副知事交渉で来年度予算に関する重点要望届ける

長期化している物価・資材の高騰は、中東情勢の緊迫化、長期化により先行き不透明です。

こうした時こそ、道民の足下の暮らしと営業を守ることが、道庁に求められます。

にもかかわらず、具体的なことが全く示されない「副首都構想」に、鈴木直道知事が手を挙げたことに大きな戸惑いと深い疑念が広がっています。

地に足をつけた予算編成を切に訴えました。



(左から)丸山、真下両道議



(右端)濱坂副知事に要請する日本共産党道議団
(左から2人目)丸山はるみ、真下紀子両道議他

発行：日本共産党北海道議会議員 丸山はるみ事務所 〒047-0032 小樽市稲穂1-12-205 TEL 64-5591 FAX 64-5592 メールアドレス：jcp-maruyama@harumi7013.com

道議団
ホームページ



JAようていと懇談「ジャガイモ輸入とんでもない」 害虫防げず北海道産ジャガイモ壊滅の危機!!

政府はアメリカから生ジャガイモを輸入しようとしています。土付きのまま輸入されると、シストセンチュウやシロシストセンチュウという害虫の侵入を防げないと生産者に危機感が広がっています。JA ようていで話しを伺ってきました。

生食用ジャガイモの輸入 害虫侵入の危険性広がる

シストセンチュウやシロシストセンチュウに犯された土壌では、種ジャガイモの生産が出来なくなります。シストセンチュウへの抵抗性品種を開発してきましたが、シロシストセンチュウ抗体種はごくわずかです。なにより土壌に害虫が



〈写真上〉
JAようてい職員と懇談する
丸山道議(右他
〈写真下〉
一面に広がるジャガイモ畑

害虫処理は、1枚1枚 葉を裏返して!

「ジャガイモガ」という害虫処理では、1枚1枚葉を裏返しては、目視で確認し人の手で駆除します。種イモの生産では、3回に及ぶ検査に合格しなければなりません。根気のいる作業です。

北海道は、全国のジャガイモの約8割、種いもの9割以上を生産しています。JAようていは、生食用ジャガイモ輸入解禁は高齢化が進む農家の意欲をそぐことになりかねないと話しています。

保健福祉常任委員会道内視察 中標津、根室、釧路そして網走

お盆明けの8月中旬、保健福祉常任委員会で地域医療について視察に出かけました。全行程約900km! 北海道の広さを実感することになりました。



(剪左から2人目)
丸山はるみ道議



ドクターヘリ

羅臼町から根室市にいたる2次医療圏の中核病院です。一般病床173床、分室も2025年度は128件ありました。

2020年度から経営改革を実行、入院患者数も外来患者数も順調に伸びていますが、コロナ補助金がなく、厳しい経営を余儀なくされています。診療報酬など医療制度自体が、地域医療を支えるものになっているのか、疑問を抱かざるを得ませんでした。

経営改革を実行する
町立中標津病院

医師不足、地域偏在でも
住民を支える広域医療

市立釧路総合病院はドクターヘリの基地病院です。2009年開始、東は根室北は北見、西は帯広までを運行範囲としています。悪天候では出動できないながら、年間で250件ほど出動しています。

網走市では、遠隔仕様の聴診器や通信用PCを積んだハイエースが、看護師を乗せて患者宅や福祉施設に出向き遠隔診療をする、移動型医療サービスを視察しました。服薬指導もオンラインで行い、薬局から薬が配達されます。病状が安定している患者の通院回数を減らすことで負担軽減を図るということでした。

高齢社会を支える医療体制の構築に、各地で知恵を絞っています。政府がその努力に背を向けることは許されません。

小樽市消防団秋季合同訓練

総合訓練は、最近多発している森林火災を想定。放水訓練に加え背負式消火水のうで残り火の消火訓練も。充実した内容です。



ビアパーティーで元気をチャージ!



「平和でこそ商売繁盛、の信条を力強く響かせる民商に、「大いに期待します」とあいさつする丸山道議

～女性議員研究交流大会へ～

北海道から女性議員12人が参加。家庭との両立を図る制度について全国の事例を学習、他県の議員と交流も。



真下紀子道議、大橋さおり福島県議、丸山はるみ道議

3定前、道庁前宣伝



第3回定例会へ向けて、IR誘致、副首都構想推進はやめて、ジャガイモ生産守れと訴えました。